

3 5 大清水小

授業者 上高原 智子

1 社会科 「世界の中の国土・世界の国旗」

2 授業構想

(1) 学級の実態

社会の授業が好きな子もいれば苦手な子もいる。苦手な子でも地図帳や資料集を見ることは好きで、どの子もよく見ている。地図帳や資料集のカラフルな国旗を見て「この国旗わかる」「こんな国旗があるんだ」「『世界の果てまでいってQ』でこの国見たよ」と興味を示す子もいる。

(2) 本単元でつきたい力

世界の国旗はカラフルで、国旗に興味を持つ子は多い。世界の国旗への関心をきっかけにして、世界の国々の位置や国の様子を知り、旗の色や模様が何かを表現していることに気づかせたい。そして、どの国の国旗にも大切な意味や由来があることを捉えさせ、自国だけでなく、他国の国旗も大切にする心を育てたい。

(3) 目標を達成するための具体的な手立て

- ① 自分の持っている地図帳だけでなく、大きな世界地図を黒板にはったり、地球儀を用意し、その国旗の国が世界のどこにあるのかをすぐに確認できるようにする。
- ② 世界中の国旗がのっている下敷きを用意し、似ている国旗などが簡単にみつけれられるようにし、興味をもたす。
- ③ 興味を持った国旗をかいいたり、国旗の色をぬったり、国旗のシールをはったりすることで、模様や形や色がそれぞれの国の人にとって大切な意味を持っていることに気づかせる。

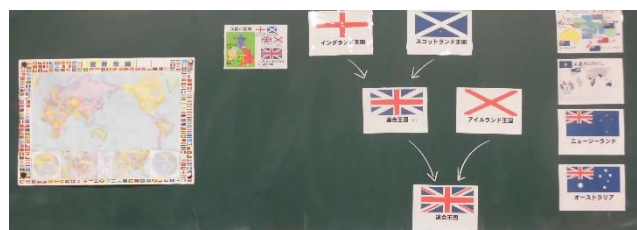
3 授業の実際

(1) 単元の様子

いろいろな国旗を提示してみせ、それがどこの国の国旗であるか国旗の下敷きで調べ、世界のどの位置にあるかを地図帳で調べた。その後、国旗の色をぬったり、シールをはったりして、色の意味などみんなで考えたり、お話ししたりした。

(2) 授業の様子

イギリスの国旗は、「イングランド」「スコットランド」「アイルランド」の十字旗を組み合わせた旗であるので、それぞれの旗を用意し、ぱっと見てすぐわか



るようにした。また、オーストラリアやニュージーランドの旗にイギリスの旗がはいっていることから、イギリスと関係があることに気づくことができた。

4 成果と課題

(1) 成果（てだての有効性についてのふりかえり）

① について

黒板にはった世界地図に磁石ではりつけられる国旗をつけることで、その国旗が世界地図の中でどこら辺の国の国旗なのか位置を理解するのに役立った。

② について

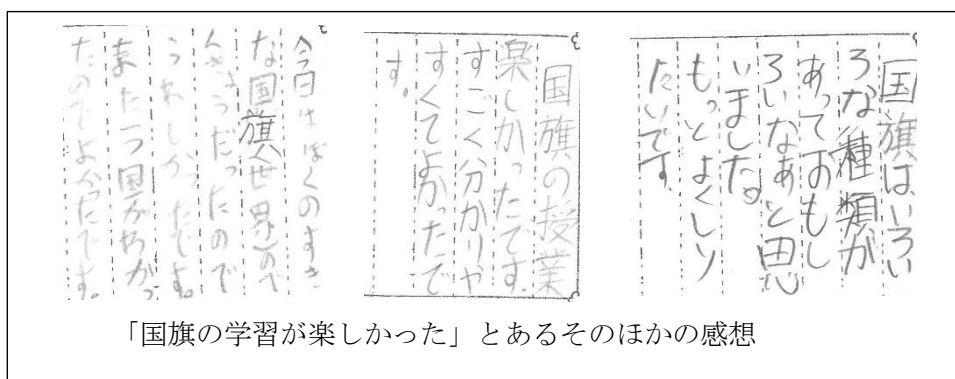
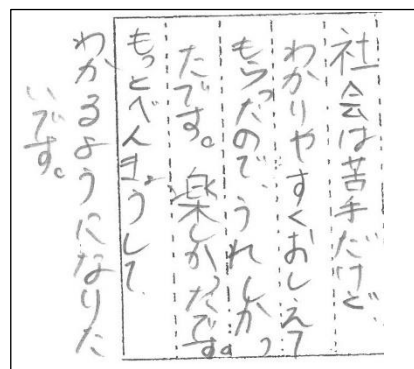
子どもたちは、世界の国旗がついている下敷きをととても興味深く見ていた。「ここここの国旗が似ているね」や「国旗の中にイギリスの国旗があるね」と興味を持って学習することができた。

③ について

国旗の色をぬることで、国旗の色はそれぞれの国で大切にしていることを表していることに気づくことができた。また、色ぬりがたいへんな子には、国旗のシールを用意していたので、どの子も嫌がらずに楽しく勉強することができた。

① ～③の手立てのまとめ

これらの手立てを通して、最初は、「たくさん国が出てきて、よくわからなかった」と言っていた子が、「社会は苦手だけど、わかりやすく教えてもらったので、うれしかったです。楽しかったです。もっと勉強してわかるようになりたいです。」と感想を持つようになった。



(2) 課題

国旗にとっても興味を持ってくれたが、世界の国々の位置をしっかりと理解することはなかなか難しい子もいた。子どもたちが世界のいろいろな国の歴史や地理に興味をもって学習できるようより楽しく学べるよい手立てを考え、学んでいきたい。